



にしどまり

第178号

地域情報誌

2014. 5. 31
編集責任者・古場公章
090-4514-2407
人口203世帯81

日露の英霊を慰霊～区民など150人が参加～

海戦の海に向かい黙禱



神事の様子



全員で献花



109年前、対馬沖での海戦で亡くなられた方々の慰霊祭が5月27日殿崎の「日露慰霊の碑」前で行われました。ロシア大使館リャボフ・オレグ総領事、陸海空自衛官含め150名が参加。式典では両国の国旗掲揚後、海戦の海に向かい全員で黙禱（もくとう）。その後、小宮大智実行委員長の主催者あいさつ。総領事及び対馬市長から慰霊のことば。神事のあとは、献花を行い慰霊祭を終了しました。次に会場を花海荘に移し、直会で終了。次年度は海戦から110年。5月27日開催予定。

主な出席者 リャボフ・オレグ総領事、比田勝副市長、武末裕雄、真崎龍介、西村眞悟衆議院議員、永留久恵、犬束通など



ロシア大使館リャボフ・オレグ総領事は、慰霊のことばで、過去に両国には、いい事つらい事があった。日露戦争もその一つ。過去のことを、お互い理解して認めることが、両国の発展には大切なこととあいさつ。招待してもらった西泊区及び日本海海戦実行委員会に感謝を述べられた。



小宮大智日本海海戦慰霊祭実行委員長(西泊区長)は、主催者あいさつで、これまでの西泊のロシア兵を助けたり、記念碑建立の取組などを紹介。「先人の思いが、これからの日露友好につなげ両国の平和交流の一助になればと。その意味で殿崎での慰霊祭は大変有意義だと挨拶」式の最後にプーチン大統領あてメッセージを託しました。